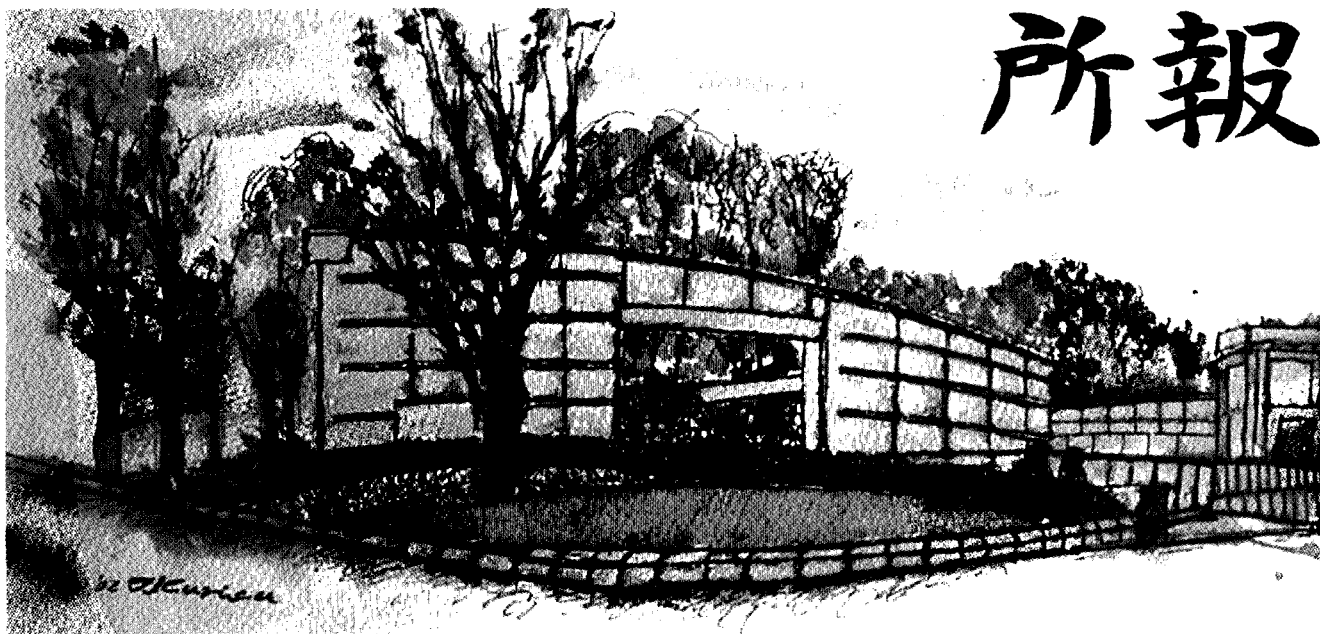


# 所報



平成14年 6月



## 遊 び

広島市教育センター所長 藤野 信也

子ども時代、どんな事をしていたかと想うとき、学校での勉強の様子は残念ながら浮かんでこない。家庭に帰り、近所の子どもたちと遊んだこととなるといっぱい出てくる。日がな一日、野山を駆けめぐり、田んぼや広っぱが遊び場であった。川へ行って魚やカニを捕らえたこと、陣取り合戦やろくむし、カンけり、おしだし、野球、チャンバラごっこ等々いっぱいある。

山へ入って、上は中学生から下は5歳くらいまでの集団でのチャンバラごっこは圧巻であった。上級生が木の枝をはいでみんなの刀を作る。それをグループ皆が腰にさして、ヤーヤーと二手に分かれての合戦である。本当に時が経つのを忘れるほど夢中になったものである。しかし、これには悲惨な後日談がある。刀にした木がウルシだったのである。翌日、皆の手はかゆくてたまらず、目も開かないぐらいに顔は真っ赤にはれ上がり、刀の当たったあとはミミズばれとなっていたのである。

異年齢の集団遊びでは、上級生にとっては統率力や

人を思いやる心が要り、育っていった。そして、下級生にはまねることから、知らないうちに人を思いやる心や遊びを豊かにする知恵もついていった。親が教えてくれる以上に、社会性や創造性が身に付いていった。

自然の中の遊びは、心にしみ通るような季節の移り変わりや、小さな虫たちの様子を感じとっていったのである。毎日同じ様な遊びでも、日々新たな発見や感動、また葛藤もあり、変化があるからこそ体全体を通して興じることができた。これらは与えられたものではなく、自分たちが経験を通して獲得したものである。

「遊び」とは日本国語大辞典によると、「思うことをして心を慰めること」「楽しむこと」の他にマイナスイメージの「しまりのないこと」「賭け事にふけること」とある。さらに「機械の結合部分がびったり付いていないでいくら動かす余地のあること」「気持ちにゆとりをもつこと」という意味もある。私は、このゆとりに着目したい。今の時代に、せめて私たちはこの「ゆとりの心」「遊びの心」を忘れないでいきたいと思う。

### もくじ

- 巻頭言…………… P. 1
- 教育研究の紹介…………… P. 2～3
- 研修講座だより（1）…………… P. 4

- 校内研修の進め方について…………… P. 5
- センター利用案内・コラム…………… P. 6～7
- 教育センターひろば…………… P. 8

## 少人数授業における指導の工夫 改善をめざして

教育センター主任指導主事(事)主任 尾形 慎 治  
前教育センター主任指導主事 森 下 幸 子  
(現長束中学校教頭)  
教育センター指導主事 藤 村 和 彦

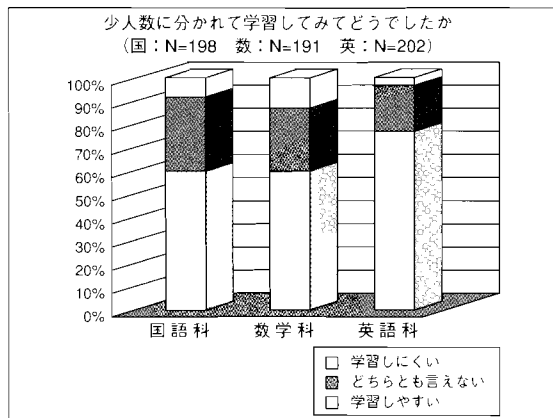
平成13年度から各学校に教職員が加配され、少人数授業の導入が可能となりました。そこで、中学校国語、数学、英語の3教科の少人数授業における生徒の学習の様子を、授業観察や意識調査等から読み取り、少人数における指導の工夫改善のための留意点を整理しました。

### 1 少人数授業の概要

少人数授業は、教科のねらいや単元の内容により、「興味・関心別学習」重視タイプ(国語科)、「習熟度別学習」重視タイプ(数学科)、「学習スタイル別学習」重視タイプ(英語科)で実践しました。

### 2 少人数授業に対する生徒の意識

「少人数に分かれて学習してみてどうでしたか」という意識調査の設問に対して国語科、数学科では6割、英語科では7割近くの生徒が学習しやすいと感じています。



今回の少人数授業では、どの教科とも、授業が待ち遠しい、楽しい、もっとやりたいという情意面の育ちが見られました。実際、生徒の、学習へ積極的に参加しようとしたり、学習活動に意欲的に取り組んだり、最後までねばり強く取り組もうとしたりする姿が見られました。

### 3 少人数授業のよさ

少人数授業において次のような工夫を行うことで、様々なよさが生まれています。

#### (1) コース別のねらい・学習活動の焦点化を図る

教師が個に応じたかわりができることで、生徒は教師に対して親近感をもち、それが安心感となり学習への意欲を高めています。

(2) 学習に対する同質の個性でのグループ編成を行う  
学習内容への興味・関心や、学習スタイル、習熟の状況等によって編成されたグループで学習することで、生徒の課題意識や目的意識が共有化されるなど、学習集団としての仲間意識が生まれ、学習への連帯感や一体感等を高めています。

#### (3) コース別の教室を用意する

広い空間を学習内容や学習活動に応じて学習することで、生徒のゆとり感や自由さが増大しています。また、少人数であるため、教師の指示や説明がよく聞こえるなど、落ち着いた環境で学習できることで、集中して授業に取り組もうとする態度を高めています。

#### (4) 学習進度に応じて時間調整を行う

生徒がゆったりと自分のペースで時間を調整しながら学習できることで、学習に対する安心感や見通し感が高まり、自分が納得いくまで追究したいという意欲を高めています。

### 4 少人数授業の工夫改善の留意点

少人数授業の実施に当たっては、次のような工夫改善をすることで、より効果的に授業を進めることができると考えられます。

#### (1) 多角的、長期的な実態把握をする

実態把握には、次のような方法があります。

- 診断テスト
- 授業観察
- 意識調査
- 自己評価
- 学習履歴(ワークシート、振り返りカード、作文、作品等)など

#### (2) 生徒の実態と指導の内容を重視したコース設定等をする

- 手順を踏んだ指導形態の設定
- 生徒にとって魅力あるコースの設定
- コース内での多様な個の特性に応じる手だての準備
- 支援の順番と時間設定の計画

#### (3) 生徒の実態に合った弾力的なグループ編成をする

- 教師による生徒の実態の把握
- 生徒による自己評価
- 教師による指導の目的・指導内容の提示
- 教師による学習カウンセリング
- 生徒によるコース選択

#### (4) コース内の生徒の実態に合わせた単元づくりをする

#### (5) 学習することの意味を感じさせる授業づくりをする

#### (6) コースごとに到達度を明確にした評価をする

以上述べてきた留意点を基に、少人数授業の指導の工夫を試みましょう。個に応じた指導がより充実するのではないのでしょうか。

※ 詳細は、『教育センター研究紀要第22号』及び『少人数指導の導入に係る実践研究 研究報告書』(広島市教育委員会)をご覧ください。

# 生徒指導

## 小学1年生の学習や集団生活における基本的な態度の定着と集団の規模との関係に関する調査研究

前教育センター主任指導主事(事)主任 砂原文男  
 (現青少年育成部主幹)  
 前教育センター主任指導主事 名和原恵理  
 (現矢野幼稚園園長)  
 教育センター指導主事 山領勲

近年、子どもたちの生活環境や教育環境が多様化しているためか生活習慣等において個人差が大きくなっているようです。そんな中、子どもたちの基礎学力の向上や生活面へのきめ細かな指導を実現するために、一人当たりの教員がかかわる子ども集団の規模の縮小化が図られようとしています。

そこで、小学校第1学年の学習や集団生活における基本的な態度の定着状況や、基本的な態度と学級規模との関係を探ってみました。

以下に、調査を実施するに当たっての考え方と小学校第1学年の学級担任の意識調査を通して見えてきたものの一部を紹介します。

### 1 調査設問を作成するに当たって

#### (1) 基本的な態度

基本的な態度を子どもたちが学校という社会の中で、友だちと共に学習したり、生活したりしていくときに必要とされる様々な行動や技能として捉え、次の三つの要素に整理しました。

- ①個人レベルにおける「基本的な生活習慣」の定着
- ②他者との一対一の関係における「対人関係における行動や技能」の定着
- ③多人数の集団生活における「集団生活における行動や技能(生活規律、学習規律)」の定着

#### (2) 調査問題と調査について

三つの要素のうち③については、「生活規律」と「学習規律」に細分化し、合わせて四つのカテゴリで計21の設問(各カテゴリで5～6問)を設定しました。

調査は、広島市立小学校第1学年学級担任全員を対象として平成13年7月、10月、平成14年2月の3回実施しました。

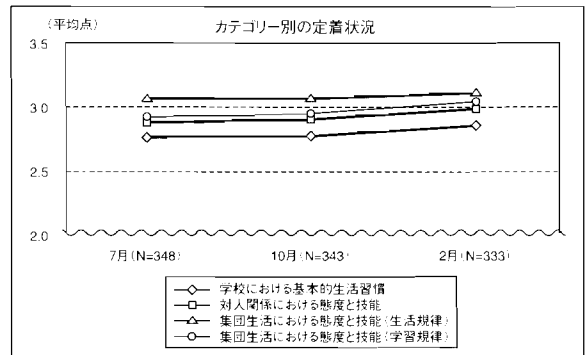
### 2 調査の結果と考察

#### (1) カテゴリ別の定着状況

設問毎に「とてもそう思う」から「全く思わない」までの4段階の選択肢を、順に4点から1点までに点数化しています。したがって回答の平均点が中間点の2.5点より高ければ担任の意識は「定着している」側に傾いており、低ければ「定着していない」側に傾いていることを示すことになります。

年間を通して、カテゴリ毎に定着状況の良い順

に並べると「生活規律」「学習規律」「対人関係」「基本的な生活習慣」になっていること、全体的に「定着している」側で推移しており、着実な定着につながっていることが分かりました。



#### (2) 集団規模による定着状況の伸びの違い

集団の規模との関係については、小規模の集団の方が「基本的な生活習慣」「生活規律」「学習規律」において定着状況の伸びがよく、指導の効果を得られやすいことが分かりました。逆に「対人関係」については集団規模が大きい学級の方が定着状況の伸びがよいことが分かりました。

	集団の規模			
	25人以下 N=25	26～30人 N=151	31～35人 N=135	36人以上 N=22
基本的な生活習慣	1 食後の手洗いをしない			
	2 手洗いの順序ができていない			
	3 衣服の汚れがもたらせている			
	4 靴、靴下を履いていない			
	5 忘れ物をしない			
	6 年間の目標を達成している			
対人関係	7 おいづれが友達とできる			
	8 お礼や謝辞をきちんとできている			
	9 乱暴な行動をしない			
	10 思いやりのある行動ができていない			
	11 友達と遊ぶことができていない			
	12 順番を待つことができていない			
生活規律	13 公共物を大切に使用していない			
	14 手洗いをすることができていない			
	15 時間を守ることができていない			
	16 学級のきまりが守れていない			
学習規律	17 学習の準備ができていない			
	18 授業中に私語をしない			
	19 授業中、机や机に立ちあぐない			
	20 教員の指示が通らない			
	21 学習に意欲的に参加できていない			

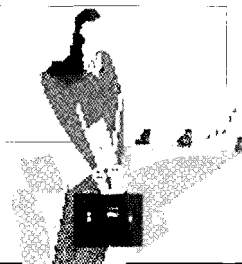
※ 網掛け: 年間を通して定着状況がとても伸びている  
 □: 年間を通して定着状況が伸びている  
 ※ 「36人以上」は複数教員による指導

各設問について「指導の必要を感じる児童数」についても回答を求めたところ、指導を必要とする児童数の割合が学級内の12～13%程度に感じられると、担任はその設問内容に対して定着状況がよくないと捉えはじめています。なお、このことについては、集団の規模による差が見られませんでした。

※ 詳細は、『教育センター研究紀要第22号』及び『複数教員による学級指導に関する実践研究 研究報告書』(広島市教育委員会)をご覧ください。

# 研修講座だより (1)

5月に実施した研修(一部)の概要をまとめました



## 暴走族加入防止に関する特別講座

### 講座の主題

暴走族への加入の防止へ向けた取り組み

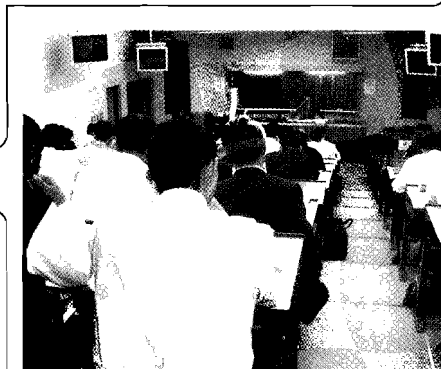
### 講師

広島県警察本部警部 池田 泰明  
広島県暴走族相談員 八橋 孝幸

この4月の「広島市暴走族追放条例」の制定・施行等に伴い、学校にも暴走族への加入の防止に向けた取り組みが、これまで以上に必要となっています。

### 講座の概要

- **暴走族の現状と問題点**
    - ・ 42グループ、310人と推定されている(平成13年度末現在)。
    - ・ その行動は、犯罪が凶悪化(路上強盗、恐喝、ひったくり等)、粗暴化(警察官に対する公務執行妨害等)、暴徒化の傾向にある。
  - **県警本部等の対策例**
    - ・ 暴走族への加入の防止や暴走族からの離脱の促進等に向けた、取り締まりの徹底、県及び市の暴走族追放条例の運用
    - ・ 暴走族相談員(公安委員会の委託)による、上記の加入の防止や離脱の促進等に係る相談
  - **学校に期待すること <県警本部生活安全部職員、相談員から>**
    - ・ 暴走族加入の恐ろしさについての理解
    - ・ 学校における居場所づくりの促進、自己肯定感の醸成
    - ・ 基礎学力の定着、社会性(規範意識等)の育成
    - ・ 生命を尊重する態度や人間関係調整能力の育成
    - ・ 保護者への啓発、連携の強化 など
- 共に、加入の防止、離脱の促進に向けて連携を強化しましょう。



## 学習指導講座

### 講座の主題

新しい評価観と学習評価

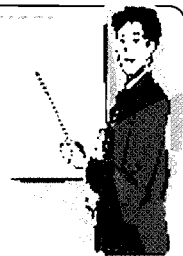
### 講師

早稲田大学 教育学部  
教授 安彦 忠彦

### 講座の概要

- **新学習指導要録に表れた評価観**
  - ・ 「学力」を自ら学び自ら考えるなど<生きる力>の観点からとらえ直し、目標に準拠した評価、個人内評価を重視して行う。
  - ・ 目標に準拠した評価、個人内評価を重視することは、指導改善の充実につながる。また、学校の説明責任をより果たすことができ、家庭や地域社会との信頼関係を深める。
- **学習評価改善の重点**
  - ・ 「自己評価・相互評価」の意味・価値を重視して、学習の「自主・自律」を促す学習評価を「つまずき・誤り」もまた、活動を創り絶えざる改善を図るうえで重要な情報源であり、意義のあるものと子どもが自覚できるようにする。  
「学習計画」だけでなく、同時に評価計画(学習目標)を作成・活用させることによって、学習目標とのずれを、子どもが自覚できるようにする。
  - ・ 学習過程を一層重視した学習評価を  
量的な評価に、質的な評価(子ども自身の作品、提出物、言動などによる「ポートフォリオ評価」等)を加えて、子どもの学習の実相(文脈や背景など)を把握する。  
教師同士が協力して、多角的・多面的に評価を行う。

# 校内研修の進め方について



各学校では、自校のめざす子ども像や学校努力事項の実現に向けて、学習指導法等の工夫改善をめざし、年間を通して計画的に校内研修を実施されていることと思います。

その校内研修では、研究の重点や研修方法等についての研究会議をしたり、講師を招いて講話を聴いたりすることもあります。より実践的で、自らの指導力を高める研修の一つに授業研究があります。

授業研究を行う場合、授業後、授業者が授業設計の意図や学習過程の流れ等について説明したり授業を終えての感想等と話したりした後、参観者が気付きや意見を出し協議をするというのが一般的でしょう。その際、どちらかという、まず指導者としての立場に立って、本時の指導目標を達成するための教材・教具、教師の発問・指示・説明、学習環境等にかかわる、いわゆる指導法の適時性・適切性などについて検討・研究されることが多いようです。

それはそれで、とても大切に意味あることなのですが、現在、子ども一人一人の個性を生かし個に応じた教育を実践していくことや、学習が一人一人の子どもにとって意味あるものにしていくことが重要になっています。そうすると、一人一人の子どもが、学習過程の場面場面で、どのような思いや考えをもち何を学んでいるのか、子ども同士はどのようなかかわりをもちどのような活動を進めているのか、教師と子どものかかわりはどうか等、いわゆる、子どもの学びを育む観点から授業研究・授業分析を行うことが重要であると思います。その共同的な行為は、子どもの考えや行為と教師の思いや行為とのずれなどを発見することや、指導方法を柔軟に修正する力を高めていくことにつながっていくと思います。

そのためには、授業研究する形態一つをとっても、教室の後ろから子どもたちの背中を見ながら教師の言動を分析するだけでなく、教室の前や横から子どもの表情や行動をよく観察する必要があります。

このことにかかわって京都大学大学院教授の藤岡完治先生は、「我が校の学びをつくる」(教育雑誌『悠』2002年4月号 ぎょうせい)の中で次のように述べておられます。

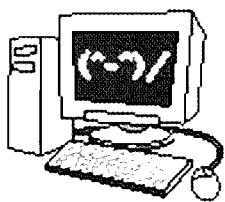
～前略～

一人ひとりの教師に身体化されている知を顕在化し、お互いに共有し、言語化して明示知として「我が校の知」として蓄積していくためには、「仕掛け」が必要である。

この仕掛けは、子どもの事実から出発するのを原則とすべきである。授業のその時、その場で子どもの中で起こっていることをありのままにとらえ、教師が自分のことばで語ることが大切である。そしてお互いが語り合い、聞き合う中で、一人ひとりの教師の中に「知」が確認されたり、「知」が修正されたりするわけである。また、その仕掛けが生み出す「場」はそれぞれの教師のものであってしかもそれぞれの個々の教師を超えた「知」を生み出す場である。この場の中で生まれ、成長し、共有されていくものが我が校の知である。また我が校の知の生成を可能にする仕掛けもまた、我が校の知なのである。

このような仕掛けはそれぞれの学校が、それぞれの環境、条件の下で生み出していけばよいのであるが、筆者はフリーカード法、カード構造化法、参加観察法、授業リフレクション、授業アセスメント、等の仕掛けを提案し実践している。例えばフリーカード法であるが、これは授業を参観する者が授業の中で見たこと、聞いたこと、感じたことをその時点で自由に名刺大のカードに書き落としていく。一枚一項目の約束で、記入時刻は落とさない。観察者によって書きためられたカードは時間を書き込んだ模造紙紙の該当する時間に集められ、内容の近似性に従ってグルーピングされる。そのグループ(島)に話し合っってタイトルを付け、その後、それぞれの島と島を因果関係、対立関係、前提と結果等を表す線で結んでみる。自分のカードの位置がわかり、しかも集団で作った流れも見える。実はこの作業の中で迷い、気づき、発見、他者との比較といったダイナミズムが生じており、新たな視点の生成や共通の視点の確認、個性等を経験しているのである。ここに我が校の知の生成を可能にする「仕掛けの知」があるのである。～後略～

このような授業研究の考え方や方法を参考にして、教師一人一人の授業力をより高め合う校内研修となるよう工夫改善していきましょう。



# センター

教育センターでは教育用ソフトウェアライブラリを4階に設置し、広島市の教育関係職員の方々にご利用いただいています。

## ■ 利用時間

月～金曜日 9：00～17：15（閉庁日を除く）

## ■ 利用内容

- 教育情報の検索  
教育センターが保有する教育図書、教育研究資料、視聴覚資料、学習指導案等の教育情報を検索することができます。  
また、広島市立図書館が保有する図書資料も検索することができます。
- 教育用ソフトウェアの活用に関する相談  
情報処理技術者が専門的、技術的な相談に応じます。（金曜日13：00～17：15）
- 教育用ソフトウェアの試用  
平成14年度5月現在、ソフトウェアライブラリには、2,281本のソフトウェアが整備されています。このソフトウェアの中から、必要なソフトウェアを検索し試用することができます。

## ■ その他

ソフトウェアの整備に当たっては、毎年秋に購入希望ソフトウェアに関するアンケートを実施しています。昨年度はこのアンケートの結果を参考に76本のソフトウェアを新たに整備しました。具体的なソフトウェア名については、5月に発行した『教育用ソフトウェア日録追録』でお知らせしています。これまで配付した日録と合わせてご活用ください。

なお、本年度からWebページでも所蔵ソフトウェアの情報を提供する予定です。

## 教科書センター

- 小・中・高・養護学校の教科書等を展示しています。

### 展示場所

3階ロビー

### 利用時間

月～金曜日  
9：00～17：15（閉庁日を除く）



今年度から、貸出可能冊数が5冊に増えました!!  
ぜひ、ご利用ください。

研究・研修や授業に役立つ、図書・教育資料・視聴覚資料等を多数そろえています。今年度も新刊図書の整備をはじめとして、教育関係資料のさらなる充実を図ります。ぜひ、ご来室ください。

## 対象

広島市立学校（園）教職員  
及び社会教育関係職員

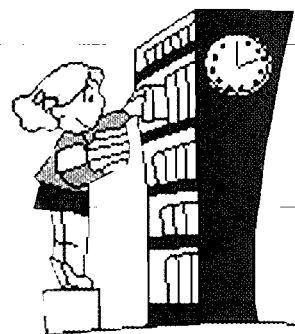
## 利用方法

- 貸出し
  - ・ 図書（3階図書資料室）
  - 個人 5冊まで／2週間以内
  - 団体 10冊まで／3週間以内
- ※ 教育関係資料の貸出しはしていません。
- 利用時間

月～金曜日 9：00～17：15  
（閉庁日を除く）

## 利用内容

- 図書の閲覧及び貸出し
- 教育研究資料（集録、紀要、要覧等）の閲覧及びコピー



# 利用案内



## 総合調整室

教育センター4階の総合調整室では、教育用ビデオソフトを整備しています。このビデオソフトはソフトウェアライブラリで視聴ができます。また、貸出しもしています。

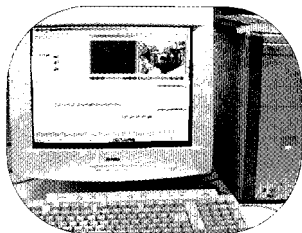
- 貸出し本数 1人3本まで
- 期間 5日間以内

AV機器を用いたビデオの編集ができます。従来のアナログ形式の編集の他、昨年度整備したデジタルビデオ編集機により、パソコンによるデジタル形式の編集をすることもできます。

ビデオ編集を希望される場合は、日程調整が必要ですので、事前にご連絡をお願いします。

利用時間

月～金曜日 9:00～17:15(閉庁日を除く)



## 教育情報の提供

- 教育センターでは、教育に関する様々な資料を収集し、皆様のご利用をお待ちしております。以下にその例をお示しします。

- ・ 当教育センターの研究に係る教育資料
- ・ 各県の教育機関の研究に係る教育資料
- ・ 教育雑誌とそのバックナンバー
- ・ 新聞の広島県に係る教育関係記事の切り抜き
- ・ 「シラバス」や「学習評価」に関する資料
- ・ 広島市立学校における「総合的な学習の時間」の学習指導計画の事例



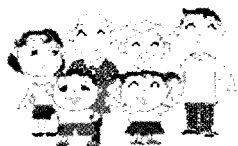
- ※ 閲覧をご希望の方は、職員にお申し出ください。



## 学校週5日制が始まりました。

4月から、毎週土曜日が休みになる完全学校週5日制が始まりました。学校週5日制は、学校、家庭、地域社会の役割を明確にして、それぞれが協力して社会体験や自然体験など様々な機会を子どもたちに提供することで、子どもたちが主体的に学び、課題を解決する力を育成することをねらいとしています。

具体的な活動として、下記のような活動などが考えられます。



- ① 職業に関する体験活動
- ② 自然体験活動
- ③ 勤労生産体験活動
- ④ レクリエーション活動
- ⑤ 福祉・ボランティア活動
- ⑥ 環境保全に関する活動 など

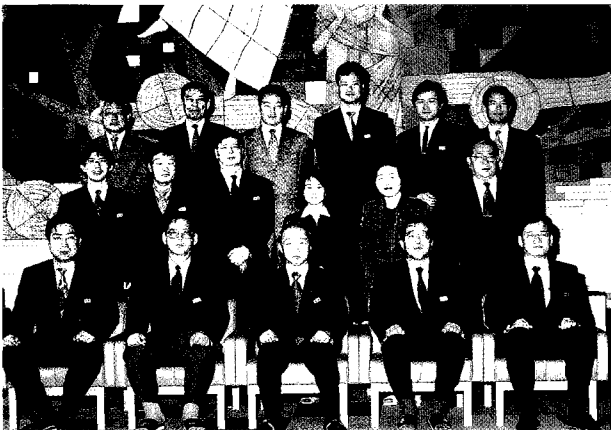
今後、各学校では公民館・図書館・美術館等の行事内容や各種サークル活動などの情報を随時収集し、地域や家庭等に情報を提供していくことも必要になってくるでしょう。『教育ひろしま(208号)』で、次のような事業を紹介しています。

「わくわく太田川子ども探検隊事業」「広島っ子わくわくサタデー事業」「文化施設等、無料開放」など

# 教育センターひろば

## 職員・分掌

事業等	職名	職員	担当業務
	所次	藤野 信也 吉竹 邦昭	所務総括 所務管理・執行
	管理部長	中 正司 加賀谷 祐枝	管理部総括、施設整備 予算・決算、文書、経理等
研修部	主任指導主事	尾形 慎治	研修部総括、管理職研修、算数科、数学科
	主任指導主事	井坂 雅浩	経験者研修、教務経営、音楽科
	指導主事	藤村 和彦	初任者研修、長研生研修等、外国語（英語）科
	指導主事	山領 勲	グループ活動研究、随時研修、障害児教育
	研修指導員	安井 忍	研修・実習の補助、その他指導主事の補佐
情報部	主任指導主事	松浦 俊雄	情報部総括、管理職研修、理科
	指導主事	堂道 和雄	広報、カリキュラム、教育評価、理科
	指導主事	住吉 磨	情報教育研究、ソフトウェアライブラリ等、情報教育、人権教育
	指導主事	水ノ上 俊一	教育情報管理、生活科、特別活動、幼稚園教育
	研修指導員	萩 元紀	研修・実習の補助、視聴覚資料関係、その他指導主事の補佐
	図書資料分類整理員	大下 千賀子	図書資料室管理関係事務



### 職員の異動

- \* 離 任** ～在職中はお世話になりました～
- 角川 忠憲 所長（美鈴が丘高等学校へ）
  - 財津 伸子 次長（城山北中学校へ）
  - 砂原 文男 主任指導主事（主任）（青少年育成部へ）
  - 永岡 敏彦 主任指導主事（中筋小学校へ）
  - 森下 幸子 主任指導主事（長束中学校へ）
  - 名和原 恵理 主任指導主事（矢野幼稚園へ）
  - 前田 憲壯 主任指導主事（指導課へ）
  - 江口 裕子 主事（議会事務局総務課へ）
  - 三井 賢二 研修指導員（退職）
- \* 就 任** ～どうぞよろしく～
- 藤野 信也 所長（中央公民館から）
  - 吉竹 邦昭 次長（昇任）
  - 鈴藤 毅 研修指導員（三滝少年自然の家から）

### 教員長期研修生

（平成14年4月～9月）

今年度前期は次の5名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

国語科教育：中本 好美（幟町小学校）  
 算数科教育：土佐岡智子（藤の木小学校）  
 総合的な学習の時間：折井美由紀（五日市観音寺小学校）  
 社会科教育：來山 英明（五日市中学校）  
 情報教育：中村 光勇（温品中学校）



**題 字** 広島市立宇品中学校長 三高 道裕  
**表紙絵** 広島市立五日市観音小学校教頭 栗栖 恒久

### 編 集 後 記

教育センターでの研修講座等の研修を通して、一緒に子どもの豊かな学びや成長を育てていきましょう。  
 先生方の教育活動の実践に少しでもお役に立てるよう、所員一同努力してまいります。

編集・発行／広島市教育センター  
 〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号  
 TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580  
 E-mail: edu-center@city.hiroshima.jp  
 Website: http://www.hcec.ed.jp/